

軌道交通4車線を連携させた公共交通網の整備促進について

(継続)

現在の交通インフラ整備につきましては、主に道路整備に重点が置かれているのが実状ですが、将来の桐生市の存続・発展を考えた場合、鉄道網の整備が必要不可欠であると考えられます。

幸いにも桐生市には、JR・東武鉄道・上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道の4線が乗り入れており、県内においてJRと私鉄が交差する市は数市しかないという恵まれた環境にあることから、これら4線を合流させた新駅をJR東日本下新田車輛基地付近に建設することは、桐生市の都市機能を向上させ、経済発展並びに観光客誘致等による活性化につながると思われまます。

以上の理由により、これらを含めた公共交通網の整備促進につきましての調査・研究を推進されることを切望いたします。

桐生市からの回答

本市は、JR両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4つの鉄道と15の駅によって形成され、恵まれた交通環境にあります。鉄道は大量輸送が可能であり、安全性・定時性に優れ、地球環境に優しい輸送機関として、通勤・通学やまちづくりなどに重要な役割を果たしております。

また、鉄道駅をつなぐ二次交通として、桐生地区においてはおりひめバスを、新里地区及び黒保根地区においてはそれぞれデマンドタクシーを運行しております。

このような中で、平成31年3月に策定された桐生市コンパクトシティ計画（立地適正化計画）において、駅を中心としたコンパクトな都市形成を図ることとされていることを踏まえ、中心拠点（桐生駅周辺）と地域拠点（新桐生駅、相老駅）の接続性の向上を図るため、特に鉄道でつながれていない桐生駅—新桐生駅間について、令和3年4月のおりひめバス見直しに向けた運行内容の検討の中で、同区間を結ぶ中央幹線を、一日片道30本以上（現行17本）運行することといたしました。

このことも含め、これからの本市の発展のためには、交通・都市計画・観光行政などが一体となった公共交通体系の構築を更に進めていく必要があるものと考えております。

なお、4つの鉄道を合流させた新駅につきましては、都市機能の向上や本市の活性化につながる大変有効な施策ではありますが、莫大な財政負担を伴うことでもあり、将来の大きな構想として、調査・研究してまいりたいと考えております。

[回答担当] 共創企画部広域連携推進室広域連携推進担当